

3M™ Food Safety Products
技術資料

検体希釈液のpH調整に関する考え方

1. 事前検討と方針の決定

- (1) 測定する検体がpH調整を行う必要があるかどうか、以下のa.～c.を参考に事前に検討する。
 - a. 培地のpHと大幅に異なる検体を中心に検討する。
 - b. 類似した検体をグループに分け、代表的なものを検討する。
 - c. pHがわからない場合には予め測定をしておく。
ストマッキング液をpH試験紙に滴下するか、pHメーターで測定する。
- (2) pHを調整する必要がありそうな検体について方針を決める。
 - a. pHを調整しなくても正しい結果が得られる可能性に期待し、pH調整をせずに検証する。(下記2.を参照)
 - b. pHを調整して検査を実施する。(下記3.を参照)

2. pHを調整しなくても正しい結果が得られる可能性に期待し、検証する場合

- (1) pHを調整しないストマッキング液と、pHを調整したストマッキング液を用意する。
事前に、ストマッキング液に1MのNaOHを少しずつ添加し、pHがどの程度変化するかを調べ、「XX製品については、○mLのストマッキング液に△mLのNaOHを入れると、pHが□になる」という関係を明らかにしておく。

< pH測定方法に関する参考情報 >

- pHメーターを使用する場合には、電極からの汚染が生じるため、適切なNaOHの添加量を確認した後に改めて試験用のストマッキング液を用意する。
 - pH試験紙を使用する場合には、滅菌済みのピペット等で液を滴下し、ストマッキング液が汚染されないように注意すれば、そのまま培養の比較試験に用いることができる。
- (2) 培養の比較試験を実施する。
培養の比較試験においては、複数の階段希釈液を接種することが望ましい。

3. pHを調整して検査を実施する場合

- (1) ストマッキング液に1NのNaOHを少しずつ添加し、pHがどの程度変化するかを調べ、「XX製品については、○mLのストマッキング液に△mLのNaOHを入れると、pHが□になる」という関係を明らかにしておく。
- (2) 実際の試験では、ストマッキング液に予め調べた一定量のNaOHを添加する。
確認のために、ストマッキング液をpH試験紙に滴下してpHを測定してもよい。
NaOHをストマッキング後に添加する場合には、混ぜてから接種する。

仕様及び外観は、予告なく変更されることがありますのでご了承ください。本書に記載してある事項、技術上の資料並びに勧告は、すべて当社の信頼している実験に基づいていますが、その正確性若しくは完全性について絶対的な保証はしません。使用者は使用に先立って製品が自己の用途に適合するか否かを判断し、それに伴う危険と責任もすべて負うものとします。売主及び製造者の義務は、不良であることが証明された製品を取り替えることだけであり、それ以外の責任はご容赦ください。本書に記載されていない事項若しくは勧告は、売主及び製造者の役員が署名した契約書によらない限り、当社は責任を負いません。


3MIは、3M社の商標です。

スリーエム ジャパン株式会社
ヘルスケアカンパニー
フードセーフティ製品部
<http://go.3M.com/foodsafety.jp>

Please Recycle. Printed in Japan.
© 3M 2018. All Rights Reserved.

カスタマーコールセンター

製品のお問い合わせはナビダイヤルで

 **0570-011-321**

8:45～17:15 / 月～金 (土日祝年末年始は除く)
全国どこからでも市内料金でご利用いただけます